

## 常設原爆展延長の覚書署名式における小笠原大使スピーチ(仮訳)

本日、長崎の原爆の日に、原子爆弾の犠牲となられた数多くの方々の御霊に対し、謹んで、哀悼の誠を捧げます。

これまでに10年に渡り、ここ国連欧州本部で開催されてきた常設原爆展を、更に2031年まで延長すべく、本日、署名式が行われる運びとなったことを大変嬉しく思います。常設原爆展の延期に向けて、御理解、御尽力いただいたヴァロヴァヤ国連欧州本部長兼軍縮会議事務局長に感謝いたします。

長崎と広島で起きた惨禍、それによってもたらされた人々の苦しみは、二度と繰り返してはなりません。唯一の戦争被爆国として、「核兵器のない世界」の実現に向けた国際社会の努力を一步一步、着実に前に進めていくことは、我が国の変わらぬ使命です。

特に、現在のように、厳しい安全保障環境や、核軍縮をめぐる国家間の立場の隔たりがある中では、各国が相互の関与や対話を通じて不信感を取り除き、共通の基盤の形成に向けた努力を重ねること、更に、「核兵器のない世界」の実現に向けて、世代や国境を越えて核兵器使用の惨禍やその非人道性を語り伝え、承継する取組の重要性は一層増しております。

この観点から、常設原爆展は、我が国が唯一の戦争被爆国として、核兵器使用の惨禍の実相を伝え、核軍縮の重要性を訴えることを通じて、原爆被害の問題は、特定の国民や民族の問題ではなく、人類全体の普遍的な問題であることを発信していくことに貢献するものです。

この常設原爆展では、原爆の熱線で溶けた陶器や、長崎の浦上天主堂の外壁の一部等13点の被爆資料が展示されています。これまで10年間に渡り、この国連欧州本部において、多くの政府関係者、国連職員、一般の方々、若者が、この展示に触れたことの意義は大きかったと考えます。本原爆展の持つ意義に鑑み、日本政府としても、引き続き長崎市及び広島市、そして国連欧州本部への協力を惜しみません。

今後も、常設原爆展の開催が、多くの方々に長崎・広島の実相を伝え、理解を深める機会を提供し、「核なき世界」の実現に向けて貢献するものとなるよう祈念し、挨拶いたします。